

■後藤新平 台湾民政局長、満鉄初代総裁として植民地経営の基礎、東京市長として震災復興の大構想。独特な外交で人気。

ごとうしんぺい

藩書調所・1857＝ 陸中国胆沢郡塩釜村で、水沢藩留守家家中後藤実崇の子に生まれる。留守氏はもと伊沢氏といい、源頼朝が東北経営のために設置した留守職に任じた名門であったが、伊達政宗の臣下を経て、小藩水沢藩主になったもので、過去の栄光を持つ辺境の常として、幕末以降、本家の高野長英はじめ逸材を輩出する。

桜田門外変・1860＝ 3歳：

気骨あり学問ある父と、留守家筆頭侍医の長女で積極的かつ実的な母のもと、長英の又従兄弟で、高野事件で目付役を退いた祖父に可愛がられて育ち、才気煥発ながら、腕白ながき大将となり、

薩長同盟・1866＝ 9歳：

大政奉還・1867＝10歳：

明治維新・1868＝11歳：

戊辰戦争終・1869＝12歳：

留守居奥小姓となるも、主君の譴責しばしばというほどであったところに、
「明治維新となり、
戊辰戦争に敗れ、父は郷里に止まるべく帰農し平民となる。胆沢県が置かれ、赴任してきた官僚が子弟で優秀なものを採用、横井小楠の弟子の熊本藩士大参事安場一平に注目され、安場の配慮で、伊勢出身の安井息軒門下岡田俊三郎(阿川光裕)に預けられて影響を受けて、向学心・向上心がかきたられ、

廃藩置県・1871＝14歳：

学問のすすめ1872＝15歳：

明治6年政変 1873＝16歳：

安場の後任の大参事嘉悦氏房に従って上京し、太政官少史荘村省三の書生・玄関番となって住み込むも、東京の生活に適応できず、空しく帰郷、1つ下の斎藤実(のちの海軍大将で首相)らに取り残され、須賀川に転任していた阿川から、医者になることを勧められ、須賀川医学校が変則の学校であることを知ると、大学東校をはじめとする正則の医学校へ進むべく、その準備のため、福島第一洋学校に入るも、

佐賀の乱・1874＝17歳：

英語学習について行けず中退し帰郷、父と阿川に譴責され、須賀川医学校に転ずると、近代諸科学に出会って開眼、猛然と勉強し始めるや、頭角を現し、

初の民間工場1875＝18歳：

三つの反乱・1876＝19歳：

独立した開業医らを者を含む生徒寮の副舎長に任じられ、彼らを取締まる人望もあつたことが分かる。
舎長に進んで卒業、正式な洋学は学ばずに終わったコンプレックスがのちの生き方になる。前年より安場が県令に赴任し、翌年には阿川も転任になる大都市名古屋の愛知県病院に採用され、附属の医学校にはオーストリアの医師ローレッツと、それに次ぐ著名な司馬凌海がおり、短期間ながら司馬の家塾に入って、病院に通うとともに、司馬の翻訳を口述筆記したことが、衛生行政への関心を育んだようである。

西南戦争・1877＝20歳：

大久保暗殺・1878＝21歳：

西南戦争の傷病兵のため、大阪に大規模な陸軍臨時病院が設置されると、医術開業試験を受けたのち、軍医制度の確立の功労者石黒忠恵を訪ね、ローレッツの許可を得て一時勤務、自ら自信がつくとともに、石黒から認められ、さらなる飛躍の道が開け、愛知に戻るや昇進すさまじく、

明治14年政変1881＝24歳：

ローレッツの意見を受け、安場県令に「健康警察医官ヲ設ク可キ」の建白書を提出、さらに発展させて、「衛生警察を設ケントスル概略」を著して、「衛生」の語を提案した内務省衛生局長長と専断と交渉、ローレッツが任期満了で去るとともに、「愛知県立病院長兼医学校校長になる。あまりの若さにしばしば代診と間違えられ、虎髭を生やすようになった。

新体詩抄・1882＝25歳：

岐阜で遊説中の板垣退助が凶漢に刺された際、乞われてかけつけて治療、板垣をして「政治家たらしめたい」と言わせる。行政官としても有能で、大幅な組織改革を行うなどして、全国的に知られるようになり、地方医学校を甲乙に分つ制度とともに、卒業生に無試験で開業免状を下付する甲種になった。

岩倉具視没・1883＝26歳：

父が死去。安場一平の次女カツと結婚。「長与の推薦で、石黒によって内務省衛生局に採用されると、'長英を以て期す'と決意、上信越三県の衛生状態の詳細多岐にわたる現地調査から仕事を開始する一方、精神異常であると邸内に監禁されていた旧相馬藩主相馬誠胤を救出しようとする元藩士錦織剛清に会い、自らも須賀川に学んだことと、精神病者の非文明的扱いへの怒りから、「相馬事件」に関わり始める。

秩父事件・1884＝27歳：

帝国憲法発布1889＝32歳：

帝国議会始・1890＝33歳：

最初の著作で、「慣習や生物的原理」を重視し性急な「理論」の適用を否定する「国家衛生原理」を刊行、在官のまま私費でドイツへ宿願の留学、医学博士号を取得。国際会議にも参加、西欧への心情はさらに屈折するが、ドイツの社会政策と国際的位置に強い関心を抱き、日本の進むべき道を見出す。

大本教・1892＝35歳：

郡司千島探検1893＝36歳：

日清戦争始・1894＝37歳：

日清戦争終・1895＝38歳：

帰国して衛生局長となるや意気軒昂、漢方医復権運動を抑え、文部省や周辺住民の反対を押し切って、北里柴三郎を中心に伝染病研究所を設置するなど辣腕を振るい、本格的事業に着手しようとした矢先、「相馬事件」に連座して、拘引・収監、衛生局長も非職になる。

証拠不十分で無罪となるも、その間の周辺人物の言動から、役人復帰は望まなかったが、日清戦争からの帰還軍人の検疫事業の責任者たる石黒により、児玉源太郎陸軍次官に、最適者として推薦され、児玉を部長に設置された臨時陸軍検疫部の事務官長となると、身を粉に働いて期待に応え、絶大な信頼を得るに至る。検疫事業が終わると、石黒と長与の推薦で、衛生局長に復帰するも東の間、

白馬会・1896＝39歳：

子規句歌革新1898＝41歳：

日清戦争で得た台湾の阿片問題に、内務省に漸禁論の意見書を提出して、台湾総督府衛生顧問となり、*第4代台湾総督に児玉源太郎が就くのに合わせて、民政局長に抜擢され、官制改革で民政長官となり、陸軍最高指導者として、多くの職務を抱える児玉に代わって、事実上の総督として、治安を維持しながら、まず基本となる土地所有を把握すべく、臨時台湾土地調査局を設置、続いてインフラを整備すべく、

Bushidou・1899＝42歳：

自らを部長に台湾鉄道部を設置して鉄道事業を開始し、基隆築港に着手、さらに衛生制度を充実すべく、医学校を設立し、上下水道の整備に着手、これらを踏まえて、都市計画も推進、現地尊重主義に基づき、諸学者を招いて臨時台湾旧慣調査会を設置、新渡戸稲造を殖産局長として、主に砂糖産業を育成、日本に利益をもたらす唯一の植民地になるのである。なお続いていたゲリラをようやく鎮圧すると、

教科書疑獄・1902＝45歳：

日露戦争始・1904＝47歳：

新渡戸を伴い、「欧米各国に出張、ドイツとアメリカの発展ぶりに感銘。
この年初めて台湾を訪問した竹越与三郎をして、土地改革は、「これに比べれば、日本の地租改正は兒戯」と言わしめ、上下水道・都市計画はまさに欧州と驚嘆させている。

日露戦争終・1905＝48歳：

満鉄発足・1906＝49歳：

日露戦争には、列国の干渉を日本に有利になるよう導くことや、ユダヤ系金融資本の利用などの洞察、*満州支配の軸になると、児玉と一致した、日本最大になる南満州鉄道会社が設立され、児玉から総裁に就くよう説得された翌日、児玉が急死して受諾決意。満州経営についての長文の意見書を政府トップに提出し、天皇に拝謁・陪食、異例の励ましの言葉を賜わる。翌年までに広軌化を実現し、大連や長春に欧州にも劣らない都市計画を実施するなど、大陸経営の基礎を築き、隣接する中国に続いてロシア、さらには満州への関心を高めるアメリカからは貨車・客車全てを輸入するなど、友好関係にも努めて行くことになる。

アヲキ創刊・1908＝51歳：

桂太郎内閣が成立すると、満鉄を辞して通信大臣になるが、満鉄への監督権も有する新設の鉄道院総裁を兼ねたので大きな変化は無く、IBM計算機、制服、独立会計、鉄道病院など、今日のJRにつながる基礎をつくり、通信省管轄の電気事業法、郵便の速達や内容証明、赤いポストなどを始めている。

伊藤博文暗殺1909＝52歳：

大逆事件判決1911＝54歳：

明治天皇没・1912＝55歳：

大正政変・1913＝56歳：

第一次大戦始1914＝57歳：

民本主義・1916＝59歳：

ロシア革命・1917＝60歳：

本格政党内閣1918＝61歳：

ベル仁条約・1919＝62歳：

大暴落・1920＝63歳：

原敬首相暗殺1921＝64歳：

寺内正毅のもとに、日露協会副会頭に就任して面目を一新。
辛亥革命による清国崩壊で中国との関係は一変。「さらに、新設の拓殖局長も兼任するが、有力者桂太郎が前年内大臣に取り込まれ、この年死去してバックを失い、満鉄経営からも離れて雌伏。日中提携のために東洋銀行設立をめざすも叶わず。

「日本膨張論」。「新たな有力者寺内正毅内閣の成立で、内務大臣兼鉄道院総裁になって、復活したが、西原借款の形で中国支援策。衆議院解散となり、憲政会打倒に奔走。ロシア革命が起こると、妻が死去。「外相として、のちに最悪の愚行とされるシベリア出兵を実現させたが、総辞職で再び雌伏。拓殖大学総長となる。日本を一躍列強にした第一次世界大戦後の状況を知るべく、欧米旅行、

帰国。疑獄事件の責任をとって辞職した田尻稲次郎の後を襲い、市会の満場一致で、*東京市長になると、「東京市政要綱」いわゆる八億円計画を提出して、都市改造に取り組むべく人事一新、優秀な専門家多教を囑託にし、安田善次郎の寄付を得て東京市政調査会を設立、安田が凶弾に倒れて衝撃を受ける一方、招聘したアメリカの市政の権威チャールズ・ピアードから、高く評価される。

関東大震災・1923＝66歳：

母が死去。ソ連政府代表ヨッフエと私的会談を行い、日ソ国交樹立を準備。「関東大震災が起こるや、山本権兵衛内閣の内相兼帝都復興院総裁に就任し、壮大な復興計画を立てるも国会で大部分がボツにされ、難波大助による摂政官狙撃未遂事件(虎ノ門事件)で内閣総辞職し、再び雌伏、

護憲三派圧勝1924＝67歳：

虎ノ門事件で警務部長を免職になった正力松太郎など後輩の育成に努め、「東京放送局総裁となるも、2度の脳溢血の発作、回復後、力を振り絞って、厳冬のソ連訪問し、スターリンと会談したのを最後に、

世界恐慌・1929＝72歳：

北岡伸一(後藤新平(中公新書))

没した。